

平成 11 年度アマノリ養殖概況

牧野 賢治・廣澤 晃

平成 11 年度漁期の概況は、昨年と同様、採苗時期が高水温により遅れたため、育苗、冷凍入庫の作業が例年より遅くなった。本養殖の開始時期は各漁協によって違い、早い漁場では 11 月上旬、遅い漁場では 12 月上旬であった。本張り後は、昨年のような強風による芽落ち等の被害により第 1 回共販が中止になることはなく、12 月の共販枚数は前年比 120.1%となった。年明け後は順調な生産が続き、2 月中旬から 3 月中旬にかけて栄養塩の低下による色落ちが見られた。平成 11 年度漁期の共販枚数は約 1 億 8 千万枚、前年比 113%だった。なお、単価は高級品の荷動きが悪く単価が伸び悩み平均単価は 7.92 円、前年より 0.84 円安だった。

1 平成 11 年度漁場環境状況（図 1～6）

（降水量及び日照時間は徳島地方気象台のデータを用いた。）

2 平成 11 年度漁期の共販結果（図 7～8）

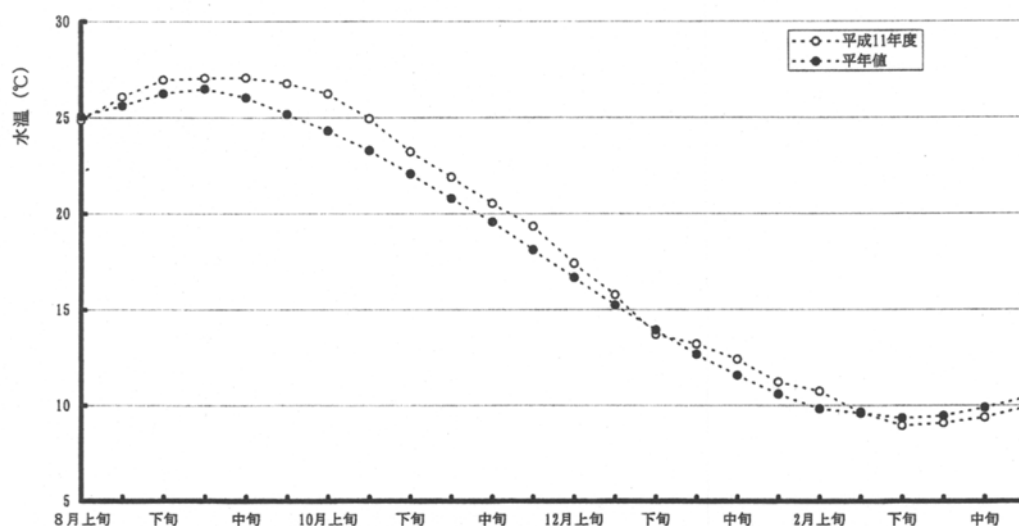


図 1 平成 11 年度水温（鳴門分場汲み上げ海水）

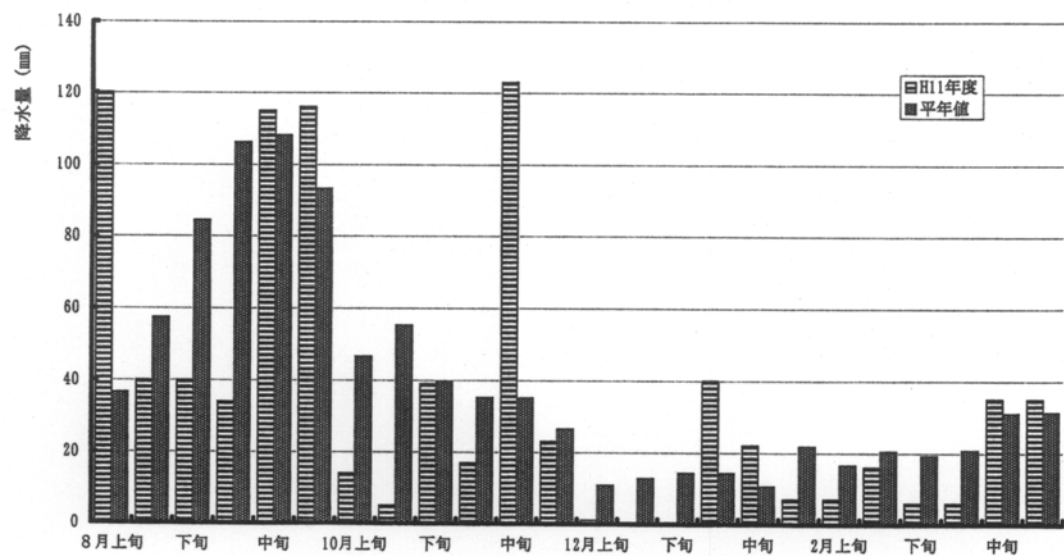


図 2 平成 11 年度漁期の降水量水温 (徳島市)

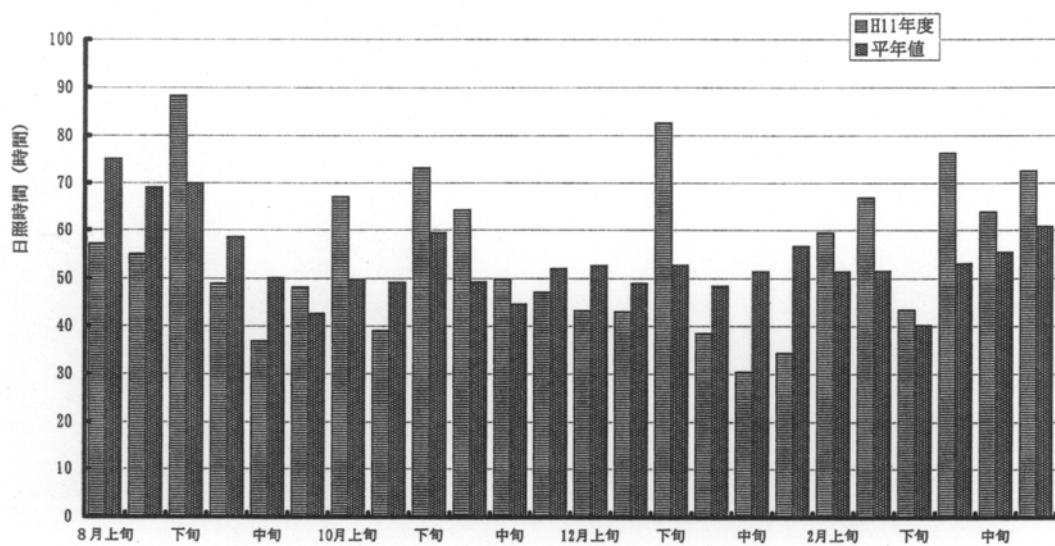


図 3 平成 11 年度漁期の日照時間 (徳島市)

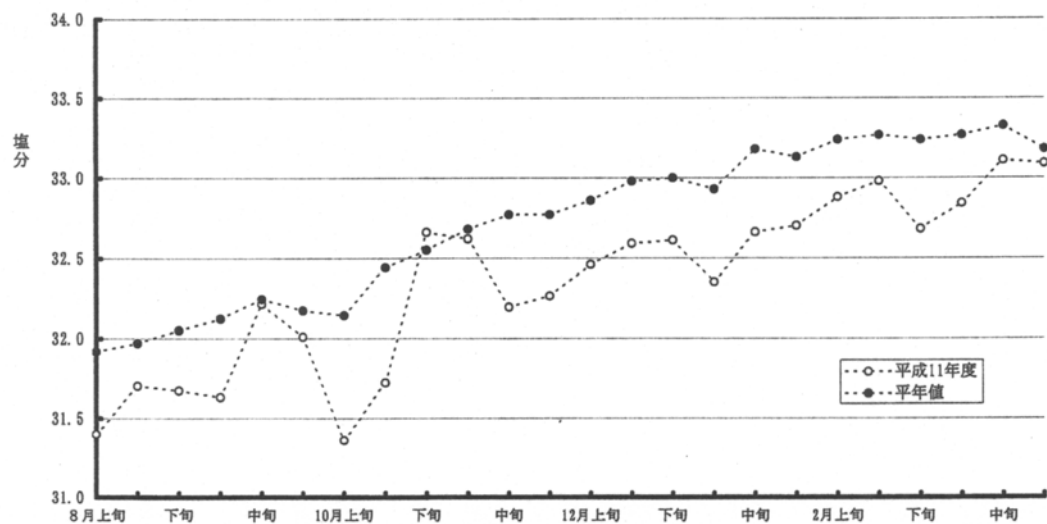


図4 平成11年度塩分（鳴門分場汲み上げ海水）

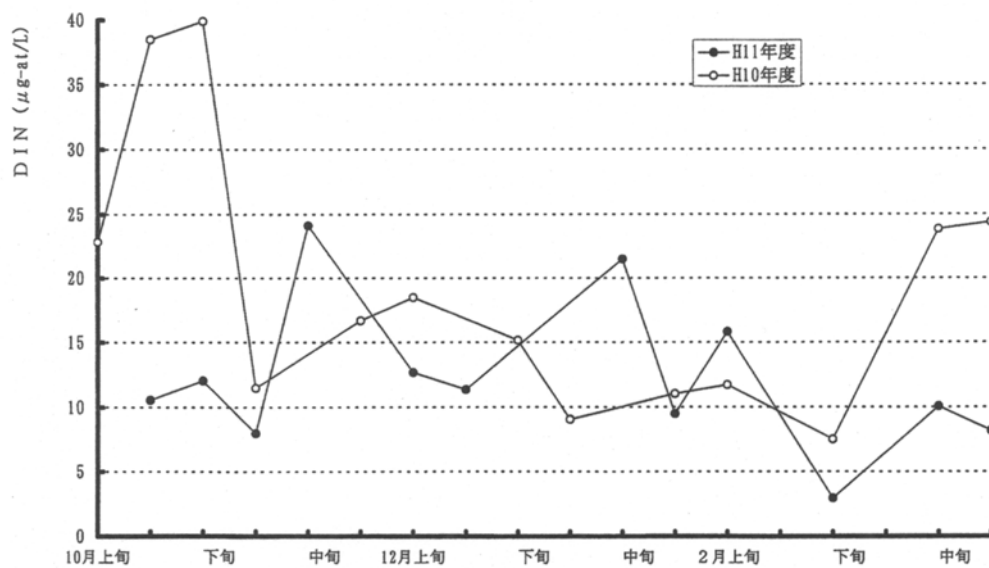


図5 各漁場のDIN（吉野川河口周辺）

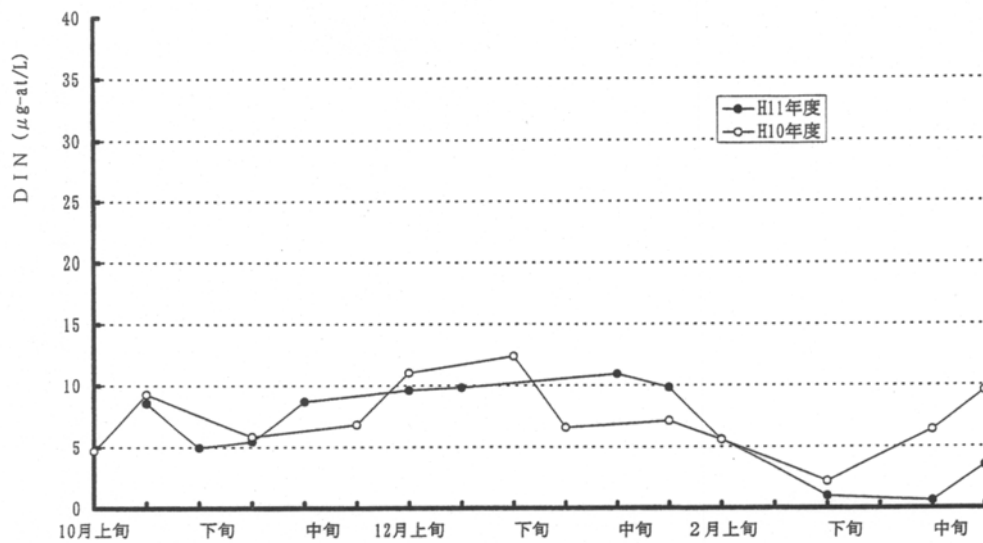


図6 各漁場のDIN (県南部漁場)

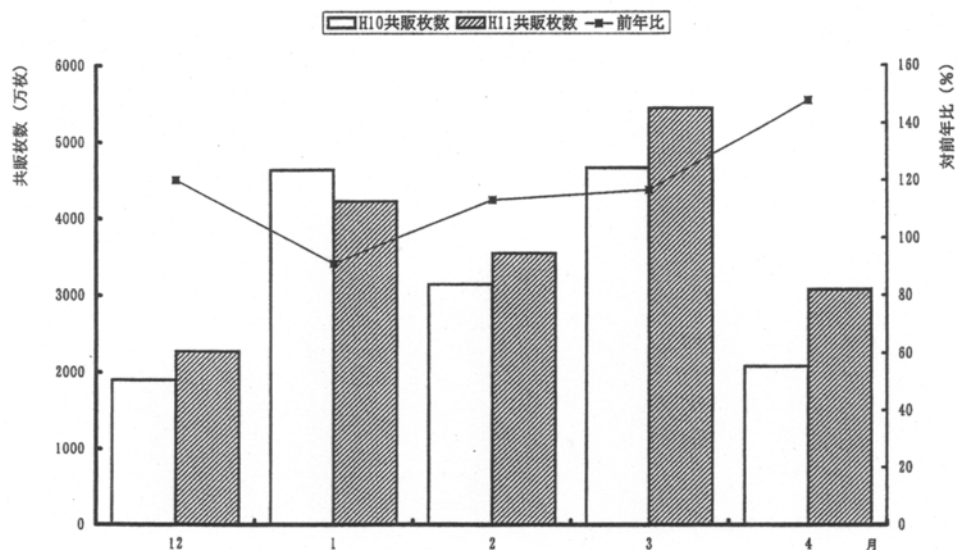


図7 月別共販枚数

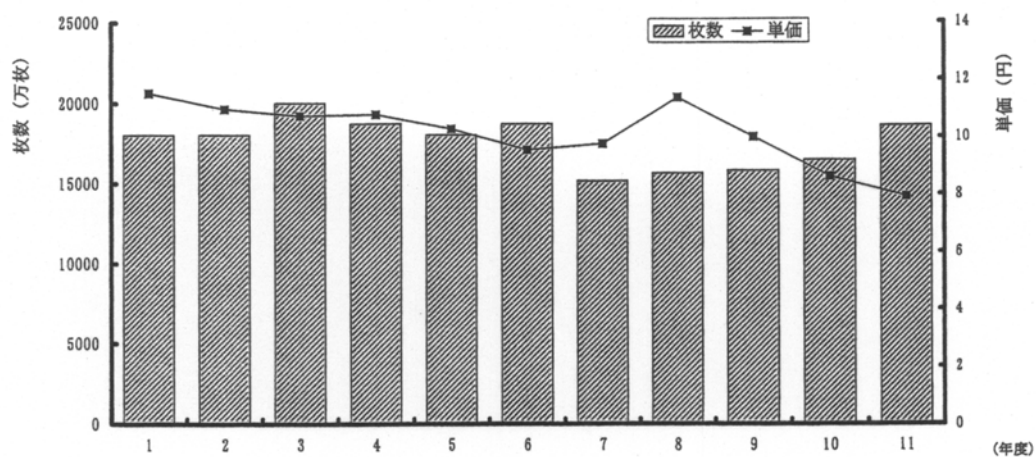


図8 年度別共販結果の推移